

令和7年度伊藤光昌氏記念学術助成金(海外渡航助成)成果報告書

研究課題番号	R7-T2
研究者氏名	水谷 純基
所属・職 (または学年)	京都大学理学研究科化学専攻・修士課程2年
渡航目的	北太平洋亜寒帯からベーリング海における海域において、微量金属元素 Pd, Pt, Au の海水中濃度の3次元鉛直断面分布を明らかにするためのサンプル採取。
渡航先	ダッチハーバー (アラスカ), バンクーバー

	渡航費	滞在費	その他	総計
助成金額に基づく予算額 (円)	200 (千円)			
実際の使用内訳 (円)	200 (千円)			

このたび、海洋化学研究所の海外渡航助成を賜り、学術研究船「白鳳丸」による KH-25-3 航海に参加いたしました。アラスカのダッチハーバーからカナダのバンクーバーに至る約1か月間、ベーリング海および北太平洋において海水サンプリングと観測調査に従事する貴重な機会となりました。

航海中は、CTDによる採水作業を主として、一連の海洋観測プロセスに従事し、経験豊富な研究者や技術者の方々から現場での的確な判断力や、データの精度を担保するための細やかな工夫の重要性を学ぶことができたことは、大きな収穫となりました。乗船時、右も左もわからないような私に一つ一つ丁寧に指導くださった研究者の方々のおかげで、航海中に海洋化学にまつわる沢山のことを知ることができました。この経験と知見は、航海終了後の自身の研究にも大いに役立ったと思

います。

また、船内という限られた環境の中で、専門分野の異なる他大学の研究者や学生と寝食を共にし、交流した時間は非常に刺激的でした。私自身の研究を客観的に見つめ直すとともに、多様な視点を持つことの重要性を改めて実感できました。

航海から約半年が経過しましたが、このたび無事に修士論文を書き上げることができました。執筆中には行き詰まることも多々ありましたが、白鳳丸での航海の記憶と経験が大きな支えとなったことは間違いありません。修士論文の完成は、この航海で関わってくださったすべての皆様との交流があってこそ成し得たものです。

最後になりますが、このような挑戦の機会を与えてくださった海洋化学研究所の皆様、ならびにご指導いただいた先生方および関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

